

東京都NIE高校部会

12月発表資料

「3年生日本史探究における新聞活用
～1面記事を読んでみよう～」

東京都立八潮高等学校

地歴公民科 教諭 奥田 雅大

八潮高校の概要

①全日制普通科高校

②1学年6学級 ※1学級は特進クラス

③学校設定科目「キャリア探究」(1単位)を2年次の必修科目とするなど、キャリア教育を主軸とする。

キャリア探究とは？

目標

- ①自らの進路選択や生涯にわたる学習のさらなる動機付けとする
- ②自己の特性を知り、社会の仕組みを知り、職業の実際を知ることで、進路意識を高める
- ③自分の将来の職業に関係するテーマを設定し、探究の手法で研究を進める。

本校のカリキュラム

1年	現代の国語	言語文化	地理総合	数学Ⅰ	数学A	化学基礎	生物基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	情報Ⅰ	総合探究	HR
単位数	2	2	2	3	2	2	2	3	1	2	3	2	2	1	1
習熟度別授業				習熟度別授業											
2年	論理国語	文学国語	歴史総合	公共	数学Ⅱ	物理基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	家庭基礎	文理選択 古典演習・数学B	キャリア探究	総合探究	HR
単位数	2	2	2	2	4	2	3	1	3	2	2	2	1	1	1
習熟度別授業				習熟度別授業		習熟度別授業		習熟度別授業		自身の進路に応じて文理を選択する		どちらも習熟度別授業			
3年	論理国語	文学国語	地理/数学選択 日本史探究 世界史探究・数学C	体育	英語コミュニケーションⅢ	選択A 必修選択			選択B 自由選択			総合探究	HR		
単位数	2	2	3	2	3	8			8			1	1		
						選択して必ず履修する科目			進路に応じて、履修することができる科目						

令和7年度入学生の例

- 〈必修選択〉 日本史探究、世界史探究、政治・経済、数学Ⅲ、数学C、物理、化学、生物、音楽Ⅱ、美術Ⅱ、書道Ⅱ、保育基礎、情報の表現と管理、古典総合、文章表現、日本史演習、世界史演習、地理演習、数学ⅠA演習、基礎数学Ⅰ、基礎数学A、スポーツ総合、英語総合、英語基礎、英語発展、中国語
- 〈自由選択〉 論理表現Ⅲ、理数探究、古典総合、文章表現、国語演習、公共探究、数学ⅠA演習、数学ⅡB演習、基礎数学A、生物基礎演習、化学基礎演習、物理基礎演習、ピアノ実技、保育音楽、美術総合、実用書道、英語実践、英語会話

※教育課程については今後変更されることがあります。

実践の対象生徒

「日本史探究」(3単位) 選択生徒 **73**名

※その内、「日本史演習」選択生徒 **24**名

進路(希望)先

- ・四年制大学・短期大学: 4割
- ・専門学校: 5割
- ・就職: 1割

実践内容

①「1面記事を読んでみよう」

②一緒に読もう新聞コンクール(6~7月)

③新聞記事読み比べ

坂口氏ノーベル賞

東京新聞
2025年10月7日 p.1

生徒記述

生理学・医学賞



免疫抑制「制御性T細胞」

ノーベル賞の栄冠を手にした坂口直樹氏は、免疫抑制のメカニズムを解明し、自己免疫疾患やアレルギーの治療に貢献した。1995年に発表した論文は、免疫系のバランスを保つ制御性T細胞の働きを明らかにした。この発見は、免疫系の働きを抑制することで、自己免疫疾患やアレルギーの治療に役立つことが期待されている。

細胞の攻撃 プレーキ役

制御性T細胞の働きは、免疫系のバランスを保つことに重要です。免疫系が過剰に反応すると、自己免疫疾患やアレルギーの原因となります。制御性T細胞は、免疫系の働きを抑制することで、免疫系のバランスを保つ役割を果たします。

免疫系が抑制される	免疫系が高まる
自己免疫疾患	アレルギー
アレルギー	自己免疫疾患

2. 上の記事を簡単に説明してみよう!

スウェーデンのカロリンスカ研究所は6日、2025年のノーベル生理学・医学賞を坂口直樹・大阪大学特任教授と米国の2人に授与すると発表した。坂口氏は、免疫にブレーキをかけながら自分の体を攻撃しないようバランスを保つ制御性T細胞を発表し1995年に発表した。

3. 上の記事を読んだ感想を書いてみよう!

多くの研究のもとで受賞された坂口氏は制御性T細胞を発見し、免疫の働きを抑えらることで、自己免疫疾患やアレルギーが治療できるのではないかと発見と同時に色んな希望を見いだした。自分も将来医療にたずねあつたいと考えているので、数多くの中が見られ可能性が増えていくことに感動した。

2. 上の記事を簡単に説明してみよう!

坂口氏がノーベル賞の生理学・医学賞を取った。

3. 上の記事を読んだ感想を書いてみよう!

医療分野での進歩は数えきれないほどありますが、このように思いました。だが、制御性T細胞を1995年発表したと書いてあり、どうしてこんな長い時間がかかったのか不思議に思いました。

生徒記述

警官クマ駆除13日開始

秋田、岩手ライフル銃使用

警察庁は6日、人的被害が深刻化しているクマ対策のため、13日から秋田、岩手両県で警察官によるライフル銃を使った駆除に着手すると発表した。他県警の機動隊に所属する銃器対策部隊の警察官を派遣。両県

では、ライフル銃を携行する8人から計18人の警察官が駆除にあたる。(社会面に関連記事) 応援部隊はライフル銃を撃つ訓練を積んだ警察官で構成され、6日、両県に派遣された。現地警察と合同

で、指揮官、自治体との調整、射撃手2人の4人1組のチームを作る。両県では2チームずつの計18人態勢で活動にあたる。警察官は犬の駆除をしたケースはあるが、クマの駆除は初めて。派遣されたら、最初の1週間でクマの急所や生息を地元猟友会や専門家から座学で教わり、クマを念頭に置いた射撃訓練を実施する。

その後、現地で待機して、人の生活圏でのクマの出没情報を受け急行する。現場での活動は2週間をめぐらし、ほかの部隊と入れ替わる。クマは冬眠期を控えており、当面の危険が収まるまで派遣を続ける。銃器対策部隊は通常、人を想定した訓練を実施している。皮下脂肪が厚く、俊敏に動くクマを仕留めるには、専門的な技術が必要で、派遣期間中には、猟友会員らにクマの出没地域に同行してもらい、技能を身につける。

警察官による駆除は、自治体判断で発砲できる「緊急銃執」とは別で、警察官職務執行法に基づく。ライフル銃など特殊銃の取り扱いを定めた国家公安委員会規則では、特殊銃を使える任務は「重要施設の警戒警備」「ハイジャック対処等」「凶悪な犯罪の予防・鎮圧、容疑者の逮捕」と規定されてきた。

警察庁は6日、この規則を改正し、ライフル銃を使ったクマ駆除ができるよう任務に「危険鳥獣による人の生命、身体への危害防止を追加した。改正規則が施行される13日から、ライフル銃でのクマ駆除が可能となる。警察庁は4、5日、秋田、岩手両県でクマ対策上の課題を聴取。猟友会のハンターら地域の人員不足の実態などを踏まえて、警察官による駆除対応に踏み切った。他県でもニーズがあれば派遣を検討する。

警察庁の楠芳伸長官は6日の定例記者会見で「地域の自治体などと緊密に連携し、地域住民の安全確保を最優先として、クマ被害を防止する取り組みを進める」と述べた。【採録】

警察官によるクマ駆除の態勢



- 秋田、岩手の各県で2チームずつが活動
- 出没情報に応じて現場へ急行
- 警察官職務執行法に基づき発砲

日程

6日	他県警から機動隊員を秋田、岩手両県に派遣。座学・訓練を開始
13日	警察による駆除に着手

※警察庁への取材に基づく

2. 上の記事を簡単に説明してみよう!

クマ被害が多いので、鳥獣対策のために警察官も動き始めている

3. 上の記事を読んだ感想を書いてみよう!

ニュースでクマを駆除するというのが見るとかなり、そのための備えを日々始めていることを知った。新聞は情報の伝達が早くて便利だと思った

2. 上の記事を簡単に説明してみよう!

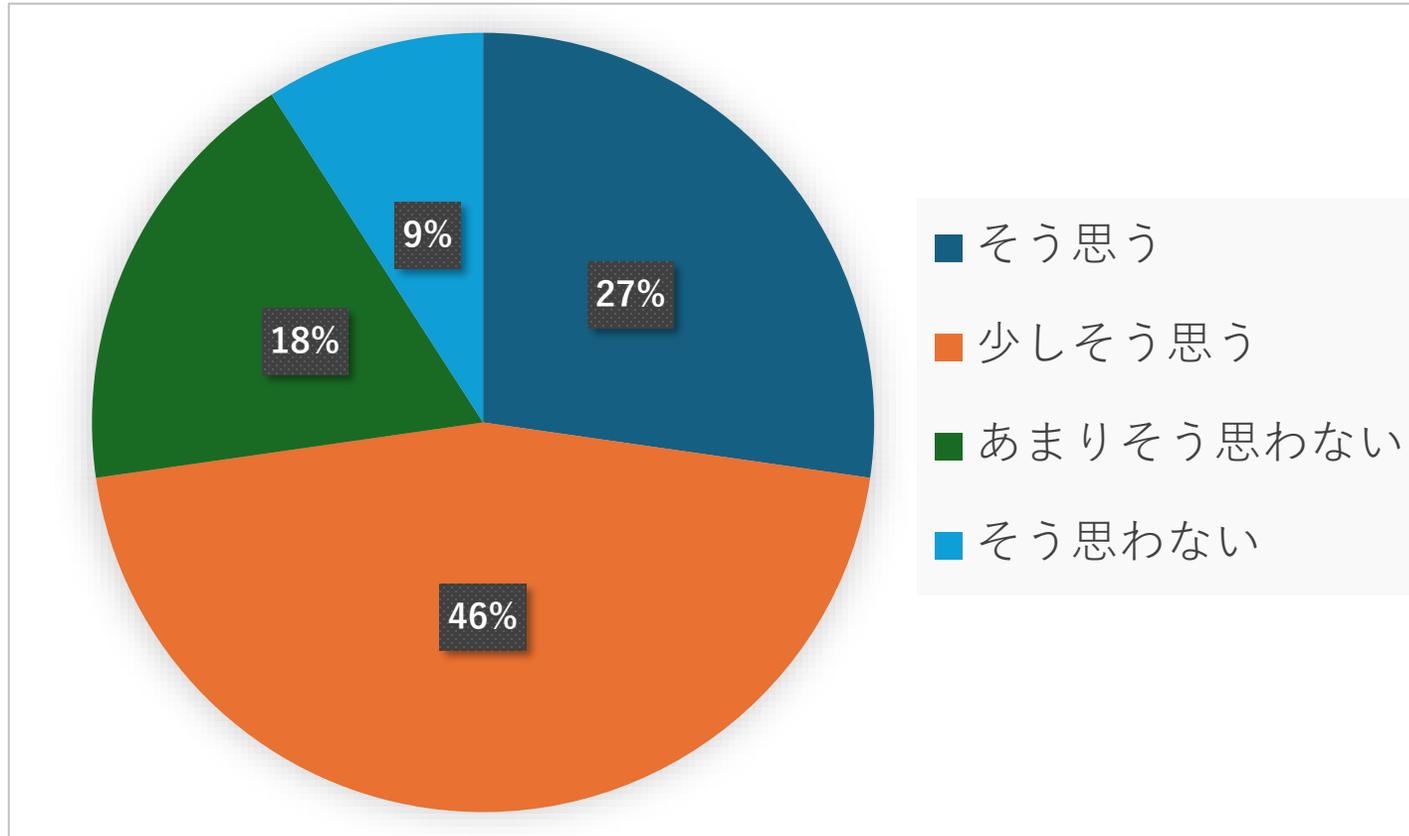
警察官の人がクマを駆除するためにライフル銃を使用している。ライフル銃を使う人は警察官の中でも特別な訓練を受けた人だけにしか使えない。

3. 上の記事を読んだ感想を書いてみよう!

クマ対策のためにライフル銃で使っているのは初めて知りました。クマにも食べ物を与えずあつたりすれば人への被害も少なくなるのではないかなと思います。秋田と岩手がたくさんクマの出現を知りました。

アンケート結果

Q: 新聞を読む前と読んだ後で、新聞を読むことが大切だと思うようになりましたか？



アンケート結果（感想）

- ・世の中で何が起きているか教養が深まって良い。
- ・普段新聞を読む習慣がないので、少し新聞を読むだけでも良いと思う。
- ・ニュースを知れるからとても良い。
- ・時事問題などを知れるのが良いが、時間が少し足りない。
- ・その日のニュースが知れてちょっと嬉しかった。

- ・難しいです。
- ・簡単な新聞を読みたい。

来年度に向けて

<課題>

- ・日本史の内容と直接的な関わりのある記事を活用することができなかった。
- ・新聞記事を探宥活動に生かせなかった。
- ・社会面を活用した授業ができなかった。
- ・「一緒に読もう新聞コンクール」に取り組むにあたり、新聞記事を読む習慣をつけることができなかった。

来年度に向けて

<取り組みたいこと>

- ・近現代の新聞記事を、「今日の新聞記事」として紹介する。
- ・「日本史探究」の現代に関する授業を、新聞記事を活用して行う。
- ・「キャリア探究」で新聞記事を活用する。
- ・一緒に読もう新聞コンクールに再挑戦する。